

コロナ禍でも「お家芸」は健在

ハノイ市人民委員長(元科学技術大臣)、保健大臣、副首相補佐官(2名)、外務次官、前駐日大使、元大阪総領事、等々。これらお歴々の共通点はお分かりだろうか。

新型コロナに絡む汚職事件に関連して、昨年来、逮捕等になったベトナム政府高官である。高官以外にも数多くの者が摘発されている。

そして、2023年1月5日には、ファム・ビン・ミン筆頭副首相およびブ・ドゥック・ダム副首相が解任された。さらに1月18日には、新型コロナの渦中に首相を務めていた、グエン・スアン・フック国家主席が辞任するという異例の事態にまで発展した。いずれも汚職事件に対する政治的責任を問われたとされる。

汚職事件は2つである。1つは海外在住ベトナム人を帰国させるための特別便の手配に関し便宜を図る見返りに業者等から賄賂を受け取っていたとされるもの。もう1つは、新型コロナ検査キットの政府調達を巡り価格を不当に引き上げる見返りに業者から賄賂を受け取っていたとされるものである。

国民が新型コロナ禍の困難に直面する中で、甘い汁を吸っていたことは言語道断であり、これだけの政府高官が処分されるのは、国家を揺るがす事態だ。しかし、筆者の率直な感想は「ああ、やっぱり。いつものこと」である。

ベトナムでは汚職は公然の秘密だ。行政手続きで融通を利かせて貰うために金品を渡す、自

身の権限を悪用して納入業者等に見返りを要求する、出世のために上司に金品を贈る等々、筆者が見聞きした例だけでも枚挙にいとまがない。

ベトナムの建国の

父である故ホー・チ・ミン党主席(以下「ホー主席」)は、当初から汚職問題に危機意識を持っていた人物である。ベトナム(北ベトナム)が第1次5カ年計画(1961~1965年)を実施した際、これを推進するため、党政治局は「3つの建設、3つの撲滅」運動を展開した。前者の説明は割愛するが、「3つの撲滅」とは汚職、浪費、官僚主義を指す。

ホー主席は当時、「汚職は社会において最も悪い行いであり、最も愚劣な罪である。汚職は公共のものを泥棒することであり、公共のものを私物化することである。それは国家建設事業に害をなし、人民の生活改善に害をなす。指導者や労働者の革命における道徳に害をなす」と断じている。そして、「幹部、党員、団員¹は人の鏡となり、自発的に行動し、正直に自己批判し、真摯に批判し、悪い点があれば修正する決意をしなければならない」と戒めている。

ベトナムの全紙幣にはホー主席の肖像が印刷されている。果たして、党・政府のどれだけの者が、ホー主席に顔向けできるのだろうか。

(北嶋誠士・アジア研究所講師)



* 研究所だより *

アジア研究所では、アジアのタイムリーな話題をお届けする講演会『アジア・ウォッチャー』を企画・実施しています。3月18日には、本学アジア研究所北嶋誠士講師が『ベトナム経済の現状と動向』と題して、ベトナムの経済について詳細なデータを使って解説しました。

また、アジア研究所では、アジアに関する共同研究を目的に、学内外の専門家から構成される研究プロジェクトを実施しています。最新の成果として「中国・習近平政権の着地点Ⅲ：中国 異例の長期政権はどこに向かうのか」(研究代表者：遊川和郎)、「アジアの高度外国人材の受け入れと

日本の取り組み」(研究代表者：九門大士)をホームページで公表しました。

下記URLからダウンロードできます。

(<https://www.asia-u.ac.jp/laboratory/projectreport/>)

2022年10月、アジア研究所遊川和郎教授が日本経済研究センター湯浅健司首席研究員と共編者となった『習近平「一強」体制の行方：中国の課題と展望』を上梓しました。不透明な中国の経済社会を見通す上で最適な一冊です。

アジア各国の政治、経済、社会は激動期に入ったようにみえます。変化の早いアジアの現状を皆さまにご提供できるように努めたいと思っています。是非、ご意見ください(koza@asia-u.ac.jp)。

¹ ベトナム労働党(当時)の青年組織の成員。